

友達のはりねずみ
ナール

月・火曜 地域発

水・木曜 朝デジから

金曜 世論調査

朝デジ から

文豪に憧れる子猫
マダニヤイ

全米高校生 競うニッポン通

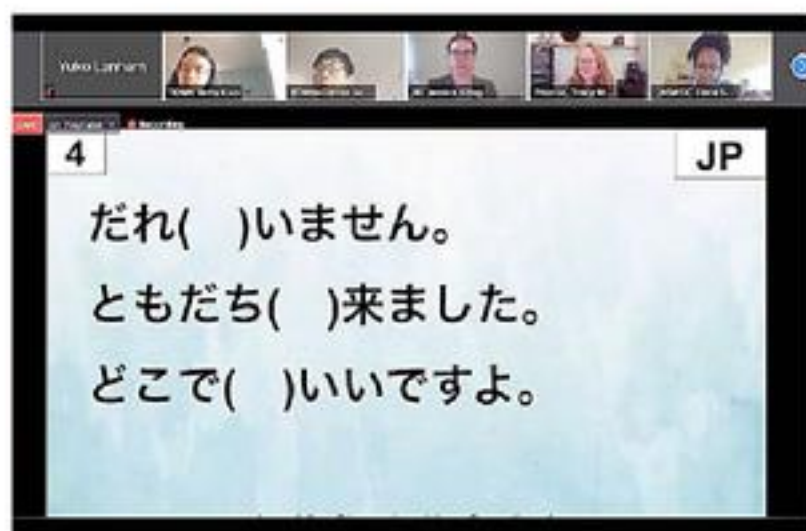
28回目クイズ大会 今年はおんらいん

米ワシントンで毎春、全米の高校生が参加する日本語や日本の歴史・文化に関するクイズ大会「全米ジャパンボウル」が開かれる。今年は新型コロナウイルスの感染拡大で開催が危ぶまれたが、5月29日にオンライン会議システムを活用して「デジタル・ジャパンボウル」として開かれ、例年とほぼ同じ人数が参加をした。

大会には全米13州とグアムにある29の高校から約170人の生徒が参加した。漁師の踊りの写真を見て「ソーラン節」と答えたり、「文楽で使われる楽器は何？」という質問に「三味線」と言い当てたりした。「耳を疑う」という慣用句を使った例文を日本語で答える質問には、「コロナウイルスで学校が閉まると聞いたときは、耳を疑った」と答える生徒もいた。

外国語として日本語を学ぶ高校生を対象としたクイズ大会は、ワシントンDC日米協会が主催し、1993年に初めて開催された。28回目となる今回は通常通りの形式は断念。そこで考えたのがオンラインでの開催だった。

協会のライアン・シェイファー会長は「ワシントンまで旅行をさせて危険にさらすわけにはいかないが、1年にわたって勉強を続けてきた



「デジタル・ジャパンボウル」でクイズに答える高校生ら＝ランハム裕子撮影

生徒たちをがっかりさせたくなかった」と振り返る。例年は、ワシントンまでの旅費を各校が寄付などで集めていた。今年は参加を取りやめた学校があった一方、旅費がかからなくなったことで参加できた学校もあったという。

米国で日本語を学ぶ高校生らは約7万人いるとされる。優勝チームを含め、成績優秀の生徒らは日本に特別に招待されるが、今年は見通しが立っていない。

(ワシントン＝渡辺丘)

＝6月3日配信